

第2回学校運営協議会（出席 委員5名、教職員29名 計35名）

1 日時：5月27日（月） 18：00～

2 場所：校長室

3 出席者：会長…志々田 まなみ会長

委員紹介…坂田さん 皆川さん 手嶋さん

石黒さん 新谷さん

与島さん、大西さん、小林さん…本日欠席

副校長先生、山田先生、川原田先生 水間

4 H31年度 学校運営方針について（川原田）教育課程について

- ・教育目標を達成するための基本方針についての説明
- ・特色ある教育活動（三谷小学校の特色）
健康教育の推進、 地域連携の充実
- ・指導の重点
俳句作り 年間3・4回取り組む。
小中一貫研修で、桃四と井草中と連携して、道徳の授業向上を図る。
- ・特別支援教育

〈志々田会長から〉

- ・このフォーマットで、この枚数だと教育委員会で決まっているのか？
→決まっている。
- ・具体的にはどこを入れなければならないと言われているのか？
→ICT、土曜授業、小中一貫、幼保小連携、オリンピックパラリンピックは
区や都で必ずいれなければならない。

〈石黒さんから〉

- ・俳句作りは、新しく入ったこと？
→昨年度、実験的に行った。試しに応募したら入賞もし、優秀校にも選ばれた。（全国で5校）今年から教育課程に位置付けている。
- ・特別支援教育 情報を提供しなければならない児童はどのくらいいる？
→今年の6年生で言えば3人。
- ・外部の連携とは、具体的にどのようなところと連携を図っているのか。
→荻窪病院、子供家庭支援センター、児童相談所、民間の機関など。

〈志々田会長から〉

- ・通常のフォーマットで入る形がよいと思う。たくさんありすぎると、どこが重点か分からないし、書いてあることをやっていないと、やっていないじゃないか、とい

うことになる。

達成できた項目から消えていくとよい。来年度もこれをベースに作っていくことになると思うので、気になることがあれば早めに言ってください。

5 働き方改革について

- ・どのようにアイデアを募集していったのか。(志々田さん)
→働き方改革について、井田先生と城石先生に責任者になってもらい、職員室に模造紙を貼り、付箋を貼ってもらい、まとめたもの。気づいたときにすぐに貼れるようにしていた。(校長)
- ・勤務時間の把握のカード、夕方の留守番電話などは、導入している。(校長)
- ・今までに考えもしなかったようなことをしていかなければならない、厳しい。(川原田)
- ・働き方改革とは何なのか。なくしてはいけないものもある。我々は授業のプロなので、それに関係することはなくしてはいけないと思う。授業に力を割けるような取り組みがなければならないのではないか。(山田)
- ・時間内にどう処理していくのかを、先生たちも考えていかなければならない。前の学校では7時くらいには退勤していることが多かった。この学校は遅くまで先生方がいる。その違いは何なのか。キャリアが少ない先生が多い。(副校長)
- ・これはいらないだろうという仕事がどんどん増えてきている。また、なくしてはいけないことも多い。時間をかけただけ、子供に力がつく部分もあるので難しい。(校長)
- ・どう収めるかを考えないと、際限なくなってしまう。時間を決めて、その時間内にできることを考えなければならない。(副校長)

〈志々田さん〉

- ・先生方みなさんの意見を知りたい。良いと思ったことについて、シールを貼る等して、どの意見を本当に実行していきたいのかを考えていってはどうか。
- ・出席簿は、もしかしたら教育委員会に言えるかも？

〈校長先生〉

「働き方改革のアイデア」の説明

- ・赤本→学運協に言ってもらえれば嬉しい。

〈新谷さん〉

- ・出席簿エクセル、デジタル化でなんとかなるものはある。
- ・将来的にはタブレットに移行していかない限り、解決は難しいものもある。
- ・行事ごとで振り返ることはしているが、入学式や学期初めのことは、働き方改革の視点

からは出なかった。(校長)

- ・ 的を絞らないと、段々出なくなってくると思う。6月8日までに振り返られる行事といえば、遠足、移動教室。(志々田)
- ・ 遠足や移動教室がらみで減らせるとか、改善できるというところはないのかもしれない。
- ・ 出るとしたら、計画書と、報告書を減らしてほしい、というのは出るかも。(副校長)
- ・ でもそれを提出することが自分を守ることにもつながるので、難しいところ。(校長)

〈石黒さん〉

- ・ プログラミングや英語教育は、先生方にとってどうなのか…。
→具体的に何をどうやっていくかをこれから学んでいかなければならないし、英語に関しても難しい。(山田)
- ・ 他の小学校のCSとつながって、区に言っていくことができれば。(志々田さん)
- ・ 英語の場合、評価も書いている。これが高学年は大変。(山田)
- ・ 小学校は、授業準備に力を入れて、評価は減らしてもよい気がする。中学校は評価が大切だが。小学校はこの教科が楽しい、分かった、ということでもいいのではないか。通知表を軽くする等はできるのではないか。(校長)
- ・ みんながこんな風に思っている、という風土になればいいのでは。(志々田さん)
- ・ 働き方改革をするための議論をするのに、時間がかかる。(校長)
- ・ 先生方の負担がかからないように。ポストイット方式はよかった。今後、賛同を得られるものと、今あるものの中で意見があるものについて、模造紙に貼る形にしていくのはどうか。
- ・ 提案している人が、本当に改善できると思っているのか。改善できるものは、段階を付け、できる順に並べる。できるものはすぐやる。(新谷)

第2弾は次々回。

配布資料

H31年度教育課程について

働き方改革 アイデア募集第1弾

記録 水間